2026年11月27日（金）

報道関係各位

プレスリリース

株式会社SkyDrive

韓国を代表するヘリコプター運航会社HeliKorea社および空飛ぶクルマの運航会社Verty社と空飛ぶクルマの運航・整備・教育体制の構築に向けたMoUを締結
～商用運航に向け、韓国での空飛ぶクルマのエコシステム構築がさらに前進～

コンパクトな「空飛ぶクルマ」（※1）の開発・製造・販売を行う株式会社SkyDrive（本社：愛知県豊田市、代表取締役CEO 福澤知浩、以下「SkyDrive」）は、韓国を代表する民間ヘリコプター運航会社であるHeliKorea Co., Ltd.（本社：大韓民国大田広域市、代表取締役 ミン・ギョンジョ、以下「HeliKorea」）、および韓国における空飛ぶクルマの運航会社として商用化に向けた初期運航実証を担い、運航から交通管理、離着陸場（バーティポート）運用までをつなぐ統合運営システムを提供するVerty Co., Ltd.（本社：大韓民国ソウル特別市、CEO キム・ドンウ、以下「Verty」）と、韓国における空飛ぶクルマのエコシステムの構築および商用化基盤の整備に向けた基本合意書（MoU）を締結しました。本連携により3者は、空飛ぶクルマの導入・運航・整備（MRO）・教育訓練体制の構築に向けた協力を進めます。SkyDriveは本連携を基盤として、韓国での商用運航開始を目指しています。



左からSkyDrive 韓国事業開発責任者 イ・ヨンス、HeliKorea 専務 イ・ガンイム氏、Verty CEO キム・ドンウ氏

■ 背景と目的

SkyDriveは、「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに掲げ、「日常の移動に空を活用する」未来の実現に向けて、コンパクトな空飛ぶクルマの開発・製造を推進しています。韓国市場においては、国土交通部（MOLIT）が掲げる「2028年の空飛ぶクルマの商用運航開始」のロードマップを見据え、韓国をグローバル展開における優先市場の一つと位置付けています。

韓国での事業化に向けて、SkyDriveは段階的にパートナーとの連携を進めてきました。2026年9月には、VertyとMoUを締結し（※2）、韓国市場における「SKYDRIVE（SkyDrive式SD-05型）」の導入および商用運航に向けた検討を開始しました。さらに同年11月には、K-UAMの首都圏実証拠点としてバーティポート整備を推進する高陽特例市を加えた3者でMoUを締結し（※3）、高陽市内における実証・試行運航および商用運航に向けた環境整備を官民一体で進めています。

空飛ぶクルマの商用運航を安全かつ継続的に行うためには、機体や離着陸場、運航システムに加え、日々の運航を担う体制、機体の安全性を保つ整備（MRO）体制、そしてパイロットや整備士などの専門人材を育成する教育訓練体制の整備が欠かせません。

HeliKoreaは1996年の設立以来、韓国を代表する民間ヘリコプター運航会社として、保健福祉部と連携したドクターヘリの運航、自治体の林野火災消火、物資輸送、航空訓練機関（ATO）としての操縦士訓練、公的機関のヘリコプター整備（MRO）サービスなど、幅広い航空サービスを手がけてきました。長年にわたり培ってきた運航・整備・教育の実績とノウハウは、空飛ぶクルマの初期運航実証を支えるだけでなく、商用化後の運航サービス拡大においても大きな力となります。

こうした背景のもと、機体メーカーのSkyDrive、商用化に向けた初期運航実証を担い、統合運営システムを提供するVerty、そしてヘリコプターの運航・整備・教育における豊富な実績を基に、初期実証の支援と商用化後の運航サービス拡大をともに担うHeliKoreaの3者の意向が合致し、このたび基本合意書を締結する運びとなりました。これにより、韓国における空飛ぶクルマのエコシステムを形づくる機体、離着陸場、運航システム、運航・整備・教育の各領域で、パートナーとの連携が進みつつあります。SkyDriveは商用運航の実現に向けて、今後もエコシステムの構築に必要なパートナーとの連携を一つずつ広げてまいります。

■ 主な協力事項

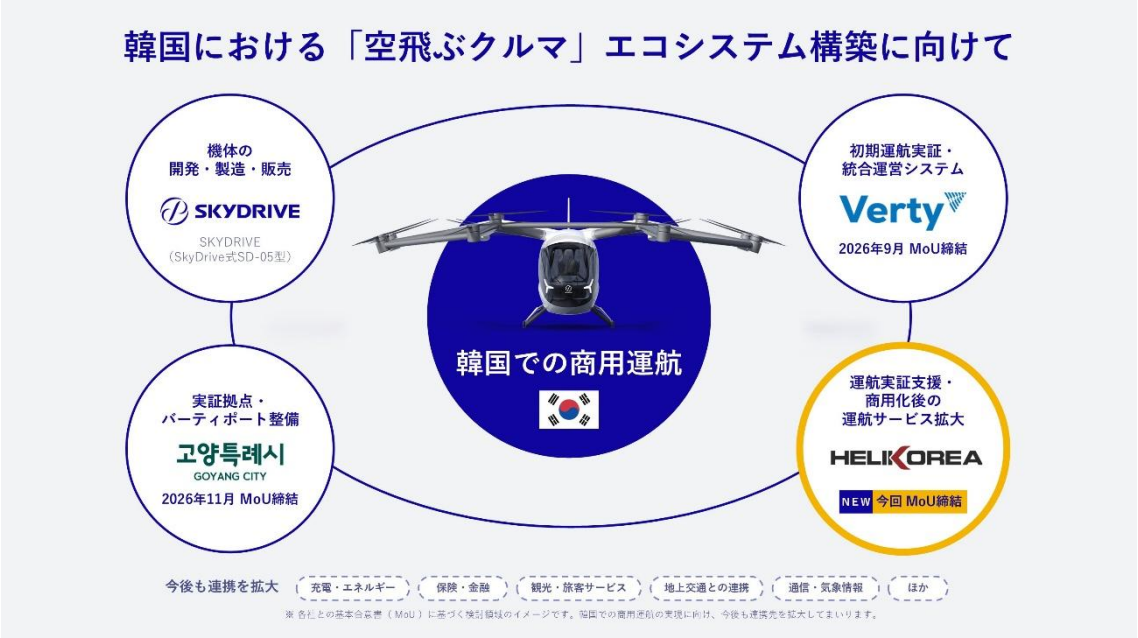
HeliKorea、Verty、SkyDriveの3者は、韓国における空飛ぶクルマのエコシステム構築および商用化基盤の整備に向けて、以下の事項について相互に協力してまいります。

- 韓国国内の空飛ぶクルマ産業の育成および活性化に向けた相互協力
- 韓国国内における空飛ぶクルマの実証・試行運航および商用化推進に向けた協力
- 機体の導入・運航・整備（MRO）・教育訓練体制の構築に向けた協力

- 3者の専門性を連携させた協力課題の発掘および検討
- その他、3者が合意した航空および空飛ぶクルマ分野における相互協力

3者は、商用化の段階に応じて以下のとおり役割を分担し、協力してまいります。

- **初期実証段階**：Vertyは商用化に向けた初期運航実証を実施し、統合運営システムを提供します。HeliKoreaはヘリコプターの運航・整備における現場経験を生かし、Vertyの運航実証および検証を支援します。SkyDriveは機体の提供と技術支援を担い、3者が一体となって運航・整備・教育訓練を含む空飛ぶクルマのエコシステムを構築していきます。
- **商用化・市場拡大段階**：エコシステムの構築後は、VertyとHeliKoreaが連携して運航サービスを拡大し、韓国における空飛ぶクルマ市場の拡大をともに牽引していく予定です。



■ 代表コメント

HeliKorea Co., Ltd. 代表取締役 ミン・ギョンジョ氏

HeliKoreaは1996年の設立以来、救急医療、林野火災の消火、人員・物資の輸送など、国民の暮らしに密着した空の道を守ってまいりました。垂直離着陸機を運航・整備してきた経験は、新たな空飛ぶクルマの機体の安全な運航と整備、そして人材育成にもそのまま生かせるものと確信しております。本協定を契機に、SkyDrive社の機体技術、Verty社の運航・インフラ能力とHeliKoreaの現場ノウハウをつなぎ、韓国国内における空飛ぶクルマの商用化の基盤を一歩ずつ着実に築いてまいります。

Verty Co., Ltd. CEO キム・ドンウ氏

SkyDrive社、高陽特例市との協定に続き、1996年からヘリコプターの運航・整備を担ってきたHeliKorea社と手を携えることができ、大変意義深く感じております。空飛ぶクル

マの商用運航は機体だけでは始められず、日々の運航と整備、そしてそれを担うパイロットや整備士がそろって初めて実現します。Vertyは韓国の空飛ぶクルマの運航会社として運航と整備に責任を持ち、交通管理やバーティポート運用までを一つの体制で担ってまいります。HeliKorea社とは運航・整備・教育の分野で緊密に連携し、長年培われたヘリコプターの現場経験を空飛ぶクルマの運航体制に生かしてまいります。SkyDrive社の機体とともに、2028年に韓国で空飛ぶクルマの商用運航を安全に開始できるよう取り組んでまいります。

株式会社SkyDrive 代表取締役CEO 福澤 知浩

Verty社、高陽市とのパートナーシップに続き、韓国で長年にわたりヘリコプターの運航・整備・教育を担ってきたHeliKorea社と基本合意書を締結できたことを大変光栄に思います。空飛ぶクルマを社会に根付かせるためには、機体や離着陸場だけでなく、日々の安全な運航を支える整備や人材育成の体制が欠かせません。SkyDriveの機体、Verty社の運航実証力と統合運営システム、そしてHeliKorea社の豊富な現場経験を組み合わせることで、初期実証から商用化後の運航サービス拡大まで、韓国における体制づくりを段階的に進めてまいります。韓国での商用運航開始に向け、引き続き多くのパートナーの皆様とともにエコシステムの構築に取り組んでまいります。

■ 各社について

HeliKorea（ヘリコリア）

1996年に設立されたHeliKoreaは、大田広域市に本社を置く韓国を代表する民間ヘリコプター運航会社です。運航と整備に強みを持ち、ドクターヘリ（HEMS）、海上輸送、林野火災の消火、小型航空運送事業（人員輸送）、物資輸送、航空訓練機関（ATO）としての操縦士訓練、公的機関のヘリコプター整備（MRO）サービスなど、幅広い航空サービスを提供しています。

https://www.helikorea.co.kr/

Verty（バーティ）

韓国のソウルに本社を置くVertyは、空飛ぶクルマの運航、交通管理、離着陸場（バーティポート）運用の三領域すべての実証準備を進める韓国唯一の事業者です。機体、システム、専門人材といったインフラの直接確保を進め、空飛ぶクルマのサービスを手がける企業に運航便を提供するB2Bモデル「AAM as a Service」の提供を準備しています。2018年の設立以来、自社の運航に必要な機能を一つのプラットフォームでつなぐ統合運営システムを自社開発してきました。利用企業はインフラ投資を行わず、飛行計画を提出するだけで運航を始められる体制づくりを進めています。韓国の国土交通部（MOLIT）が主導する商用化プロジェクトに参画し、2028年の本格サービス提供に向けた運用基盤の構築に取り組んでいます。

https://www.verty.co.kr/

※1 空飛ぶクルマとは：電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、Advanced Air Mobility（AAM）や Urban Air Mobility（UAM）と呼ばれています。

引用元：国土交通省（令和8年3月付）https://www.mlit.go.jp/koku/content/001994084.pdf

※2 関連プレスリリース：韓国での空飛ぶクルマ事業、2028年の開始を目指して運航・インフラを手がけるVerty社とMoUを締結 https://skydrive.co.jp/news/72092/

※3 関連プレスリリース：韓国・高陽市およびVerty社と「空飛ぶクルマ」の導入に向けたMoUを締結 https://skydrive.co.jp/news/72400/

≪株式会社SkyDrive　概要≫

設立	2018年7月
代表者	代表取締役CEO　福澤知浩
ＵＲＬ	https://skydrive.co.jp/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町2-1-1 豊田開発センター：愛知県豊田市西中山町山ノ田20-2 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 名古屋空港オフィス：愛知県西春日井郡豊山町大字豊場 県営名古屋空港2F 東京オフィス：東京都千代田区平河町1-3-13 平河町フロントビル3F 大阪オフィス：大阪府大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第一ビル8F 山口テストフィールド：山口県山口市阿知須
子会社	株式会社Sky Works：静岡県磐田市 SkyDrive America, Inc. ： Beaufort, South Carolina 29902, U.S.A. 株式会社AlterSky：愛知県豊田市
事業内容	「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに掲げ、「日常の移動に空を活用する」未来の実現を目指しています。2018年7月の設立以来、愛知県豊田市を主拠点にコンパクトな「空飛ぶクルマ」を開発し、静岡県磐田市のスズキグループ工場で製造を開始しています。官民協議会の構成員として制度設計にも関与し、2020年には日本初となる公開有人飛行試験に成功、2025年の大阪・関西万博でのデモフライトを経て、2028年のサービス開始に向けた取り組みを加速させています。

本件に関するお問い合わせ

≪株式会社SkyDrive≫
広報　石井
Tel:090-6389-3584
Email: info@skydrive.co.jp
https://skydrive.co.jp/contact